

外来での口腔外科処置シリーズ「口腔領域の外傷における初期対応」

第5回

外傷時の口腔内出血への対応

大分大学医学部歯科口腔外科学講座 助教
山本哲彰



【はじめに】

口腔内の外傷は、軽傷なものが殆どですが、なかには顎顔面骨折まで伴うこともあり、注意が必要で、緊急性も含めた適確な診断が必要です。

今回は顔面外傷時の口腔内出血での注意点、止血のポイントについて紹介します。

【外傷患者の受診時に最優先に行う事】

身体的所見の確認：他部位を受傷していないかを確認。

バイタルサインの確認

- ①呼吸不全の有無：気道の確保
- ②ショックの有無：ショックの予防と蘇生
- ③意識障害の有無

顎顔面外傷では合併損傷がある場合も多いので以上の事を必ず確認します。

【顔面外傷に関連した救急処置】

出血の制御

開放性損傷では、出血は必発症状です。出血の程度は、損傷を受けた血管の太さ、種類および数により異なり、受傷部位、損傷の程度によっても大きな差がみられます。

閉鎖性損傷では、組織内への出血による皮下出血、血腫形成がみられます。

また、Le Fort型骨折で整復後も出血が持続する場合には顎動脈を介した超選択的血管造影による出血部の確認と塞栓術が適応される場合もあり、出血源が特定出来ない場合には外頸動脈の結紮も考慮にいれなければなりませんので、このような場合には早急に高次医療機関へ紹介します。

【口腔内軟組織からの出血の特徴】

口腔領域は血管に富んでおり、特徴として動脈の走行はほぼ一定であるが、静脈はバラエティーに富んでいます。また、分布も密であり、別に顎骨内にも特殊な血管系があります。

以上のことから静脈性の出血が多いとされています。

・動脈からの出血

鮮紅色の血液が脈を打つように噴出しています。動脈から出血は結紮して止血する方がよいです。

・静脈からの出血

色は動脈血に比べ暗赤色で、出血の仕方も違い、持続的に「ジワー」と出血します。しかし太い静脈からの出血であれば動脈からの出血と変わりありません。細い静脈からの出血は、電気凝固止血で十分ですが、太い静脈は結紮が必要です。

・毛細血管からの出血

わき水のように創面から浸みだして溜まるような出血。圧迫して血液凝固を待つのがよいが、筋肉などの血行の豊富な組織からの出血には電気凝固や縫合止血を行います。

出血部位が明確に出来ず、圧迫も効果がない場合には止血材料（**図1**：微線維性コラーゲン、酸化セルロースなど）をあてがってガーゼで圧迫すると止血可能です。ただし止血材料は異物ですので、乱用はしないほうがよいです。

【実際の止血手技について】

・出血点の確認 (図2)

吸引し続けるといつまでも出血します。ガーゼやツッペルなどで出血部位をおさえて実際の出血点を確認することが大切です。

・圧迫止血法

まず最初に行う止血法で、口腔内からの出血では基本的には直接圧迫法で対応します。出血部位にガーゼを圧迫して止血を行います。毛細血管からの出血ではこれで対応出来る事がほとんどです。

・縫合止血法 (図3)

利点は後出血の恐れがないことですが、時間がかかることと、縫合糸が異物として組織内に残ることです。そのため、出来るだけ必要なケースのみに行うほうがいいです。

基本的には出血している血管が同定可能な場合は止血鉗子で正確に挟み結紮を行います。

同定不能で止血鉗子で挟む余裕が無い場合は8

の字縫合や、マットレス縫合周囲組織ごと結紮します。

・電気凝固止血法 (図4)

電気メスとして使用する単極型と、止血専用の双極型がありますが、外来には単局型を設置している場合が多いので、単局型の止血について示します。

止血点をピンセットや止血鉗子の先で摘み、電気メスのブレードを接触させます。その際には組織を押し込まないようにしなければなりません。組織は引っ張り上げるようにして止血を行います。

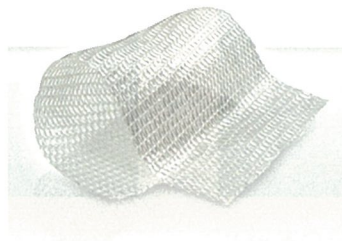
また口腔内は狭いので、ピンセットや止血鉗子が口角や頬など他の部位に接触してしまうとその部位も焼けてしまうので術者やアシスタントは十分に気をつけなくてはなりません。

図参考：イラストでみる口腔外科手術第一巻 第一版第一刷 2010

図1：止血材料



微線維性コラーゲン：アビテン

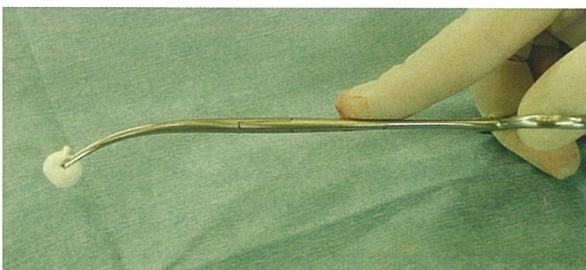


酸化セルロース：サージセル



ゼラチンスポンジ：スポンゼル

図2：止血点の確認

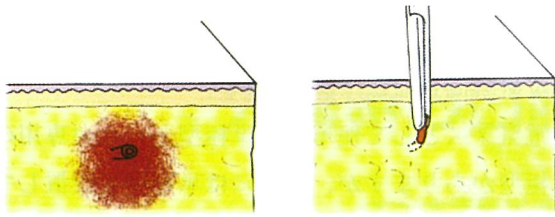


ツッペル

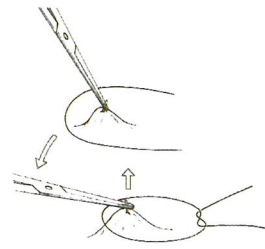


ツッペルにて出血点を圧迫

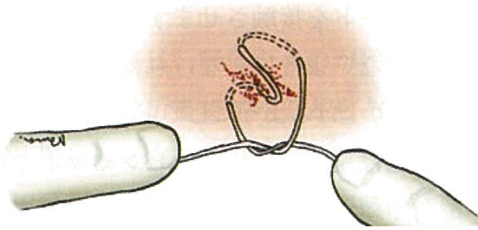
図3：縫合止血法



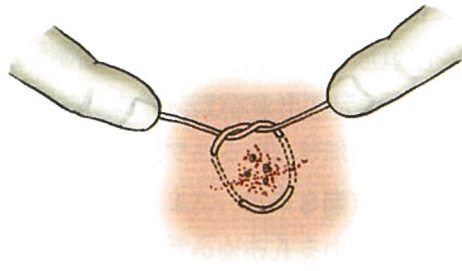
止血鉗子にて血管を挟む



結紮

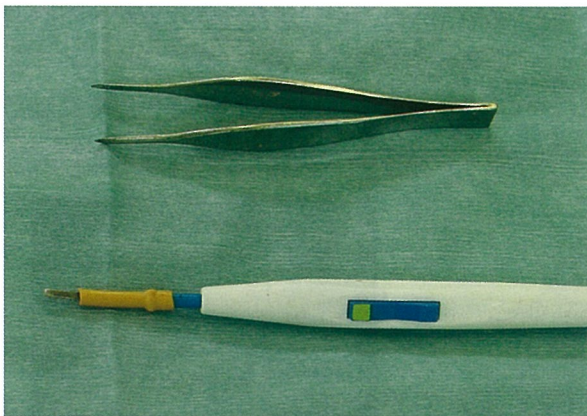


出血点周囲組織の8の字縫合による止血

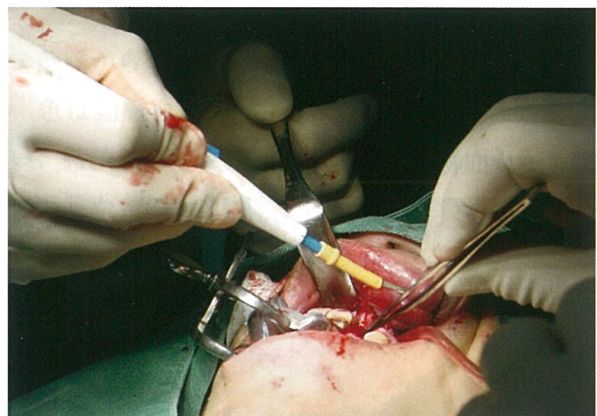


マットレス縫合による止血

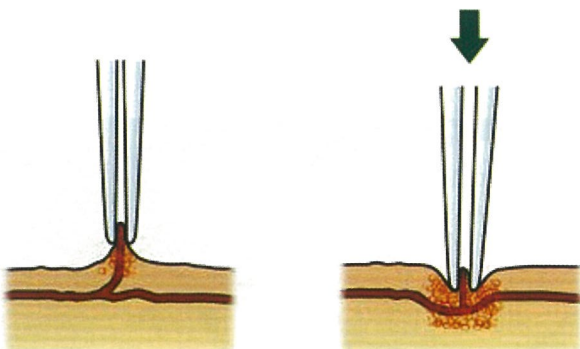
図4：電気凝固止血法



単極型電気メス



口唇に注意しながら電気凝固



組織を押し込まない様に把持する

○

×